

## 2020 年度 高等教育研究コンソーシアム信州 学生活動支援事業活動報告書

団体等名	ラブながの	
代表学生	所属大学名・学部・学年	長野県立大学・グローバルマネジメント学部・2年
	ふりがな 氏名	さくらい よしき 桜井 義生
教職員責任者	所属大学名・職名・ ふりがな 氏名	長野県立大学・講師・ <sup>のぐちのぶこ</sup> 野口暢子

活動名	戸隠スキー場を元気にする！
実施時期	2021年1月末まで
実施場所	長野市戸隠地区、長野県立大学
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸隠でのアンケート調査</li> <li>・ヒアリング調査（株式会社戸隠、そばの実の店主、戸隠観光協会）</li> <li>・長野市未来政策コンペティションへの参加</li> </ul>
活動の成果 と 今後の課題	<p>私たちはまず、アンケート調査、ヒアリング調査を通し、スキー場を含む戸隠の観光について現状分析を行った。そして深刻な人手不足、継承者不足やオーバーツーリズムが大きな課題であることを知った。この現状分析から年間を通してスキー場を活性化するためには、戸隠スキー場だけに焦点を当てるのでは不十分であると考えた。戸隠スキー場を運営する株式会社戸隠は、スキー場のほかにキャンプ場を運営している。そのため、グリーンシーズンにスキー場を活用するとしても、人手が足りないという。また、現在、オーバーツーリズムという問題を抱える戸隠で、さらにスキー場を活性化させるには、地域の人々からの理解や協力が必要不可欠である。そこで私たちは、スキー場に限らず戸隠の観光地全体に焦点を当て、課題解決を行うべく調査、研究を進めた。</p> <p>私たちは繁忙期のオーバーツーリズムと、若者向けのコンテンツ不足という課題を設定し、その解決策を考案した。初めに、前者を取り上げる。オーバーツーリズムの主な被害として、繁忙期における車の渋滞がある。渋滞に伴って、路上駐車も多くなり、道路も狭まり、車の身動きがとれなくなる。9月21日と10月11日に私たちが行ったアンケート調査では、車を利用して訪れた観光客が9割以上という結果だった。戸隠に住む方にオーバーツーリズムに関してヒアリングを行うと、「とても困っている」とおっしゃっていた。このようなオーバーツーリズムの問題は、観光名所である京都でも頻繁に起きている。京都に住む人々は、このような現状を受け、京都市の行政に不信感を持ち、現状に不満を抱いている。そのようなことが、戸隠で起きてしまったら、地域の活性化などほど遠い。よって、戸隠の地域の人々が住みやすい地域づくりをするために、渋滞緩和の策を講じる必要がある。そこで、私たちは、フリーシャトルバスの運行を提案したい。運行は休日、繁忙期のみでよいが、観光客が繁忙期にマイカーで戸隠に来る場合、このフリーシャトルバスを利用する。飯綱高原スキー場をカールにし、そこから飯綱-戸隠間はシャトルバスに乗る。現在、使われていない飯綱高原スキー場をカールとして利用することで、戸隠に入る前に車の規制をし、交通を円滑に進めるとともに戸隠の貴重な自然を守ることもできる。これにより、マイカーを使わざるを得ない戸隠の住民がスムーズに戸隠を行き来することができ、住みやすい地域になると考える。</p> <p>次に、後者の若者向けのコンテンツ不足という課題に対して提案していきたい。まず、私たちは、「若者が集う戸隠スキー場」というテーマを設定した。まず、「若者にとって戸隠のコンテンツは不十分である」という仮説を元にアンケート調査を現地で行ったところ、図1のような結果が得られた。「十分」と回答した割合が67.3%と一番多かったが、「不十分・どちらとも言えない」と回答した割合が約33%だった。そこで、「不十分・どちらとも言えない」と回答した人々の年齢の内訳を調べたところ図2のような結果が得</p>

られた。20代の32%が一番、全世代の中で最も割合が高かった。このような結果から、仮説は立証できたのではないかと考える。このような結果を踏まえて私たちは2つの提案をする。

1つ目は、ゆったり過ごせる「もり cafe」をスキー場に設置することである。「もり cafe」とは、図書館とCaféを合わせたものである。目的は、長時間ゆったりしてもらう場づくりである。この「もり cafe」の重要なポイントは、蕎麦屋とスキー場が連携することで、オーバーツーリズムを解消することである。蕎麦屋では、2時間も待つお客さんがおり、その人々が蕎麦屋の前にいることで、交通の邪魔になり、オーバーツーリズムの一つの原因になっていると考えられる。そこで、お客さんはスキー場にある「もり cafe」で待ってもらうことで、時間の有効活用になり、オーバーツーリズムの解消につながる。

2つ目は、カーステイ、つまり車中泊の環境づくりだ。カーステイ株式会社という会社を仲介することで、人手不足の戸隠でも十分に実現可能な新しい宿泊形態の導入ができる。戸隠は歴史文化の色が強い土地である。したがって、自然や文化の体験を重視した内容の旅の需要が見込める。登山や竹細工、蕎麦打ち、宿坊など体験のためのコンテンツは豊富にあり、すでに活用されている。そこに、カーステイ株式会社のサービスを取り入れることは宿泊形態を増やすだけでなく、歴史文化や自然体験の提供のためのプラットフォーム作りも合わせて行うこともできる。そして、戸隠の課題の一つである滞在時間の短さも改善できる。

このような、3つの提案によって、2つの課題の改善と、戸隠の活性化が促されると考える。また、他の企業と経営状況を比較すると、比較的うまく経営している企業は、いろんなスキー場を買収し、運営している。これは、毎年、積雪量の予想がつかないため、複数の違う地域にスキー場を持つことで、天候のリスクを減らす戦略がある。しかし、株式会社戸隠は、戸隠スキー場、ただ1つしか運営していないため、天候による売上高の変化は大きくなると思われる。よって、毎年毎年、予想がつかない経営ではなく、安定した経営戦略を考える必要がある。その1つは、ストック型ビジネスである。ストック型ビジネスとは、顧客から売上が継続し積みあがっていくビジネスモデルである。例えば、サブスクリプションやSaaSなど。これらは、外的要因に左右されず、事業の成長が見込めるのである。しかし、スノーリゾートビジネスは、天候という外的要因にひどく左右される。また、経営者たちはそれが原因だといって、新たなビジネスモデルを考えることから逃げているのかもしれない。確かに、スキー場は天候に左右されるが、その左右される幅を減らすことは必ずできるはず。よって、スノーリゾートビジネスに新たなストック型ビジネスを取り入れられるビジネスモデルを考えたい。2月末には、この提案について戸隠の観光協議会の方々と懇談する予定である。これからも戸隠地域の人々との関係を保ち、戸隠五カ年計画へ私たちの意見を反映していただくこと、さらに活性化させるための提案を続けていくことを継続していく予定である。

※記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。

※活動内容が分かる資料や写真等があれば、添付してください。添付書類を含む活動報告書一式は、A4判4枚以内にまとめてください。

※提出された活動報告書一式は、各関係機関等に公表するとともに、高等教育コンソーシアム信州のHPへの掲載を予定しています。